



2019 活動報告

樹木・環境 ネットワーク協会

もくじ

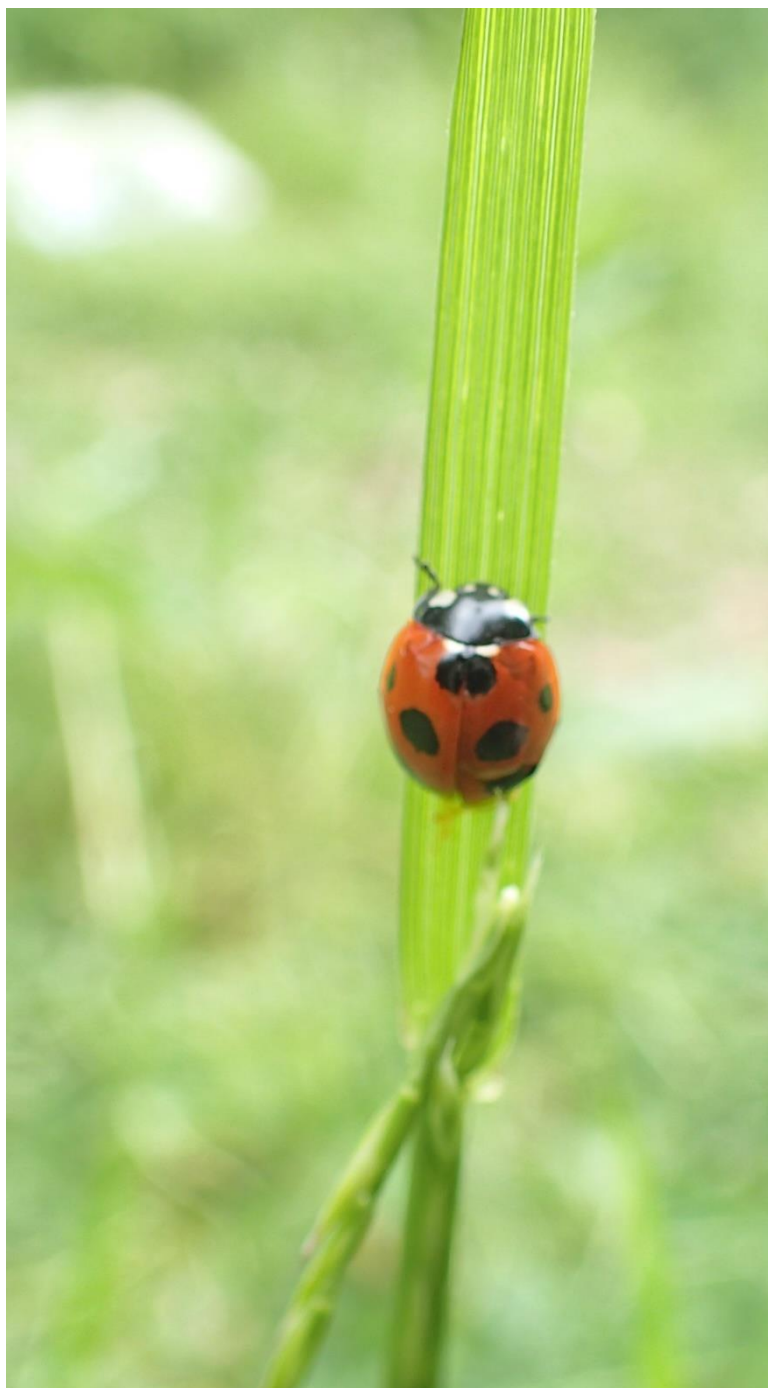
P4. トピックス

P11. 事業別報告

P19. 会員

P20. 役員・職員

P21. 財務報告



2019年度のテーマは「教育プラス」でした。環境教育や検定試験だけでなく、すべての活動や事業に人材育成という視点をプラスすることで、活動の質を向上し、10年後、20年後につながる成果を上げようというものです。この取り組みは、すぐに結果がでるものではありませんが、主体的に活動するグリーンセイバーの皆さんの姿には、着実な成長と頼もしさを感じることができました。

2019年度も台風等気候変動の影響に悩まされましたが、これらに対応することで活動の幅が広がったと考えることもできます。新型コロナウイルスもまた、私たちを成長させるための試練といえるのかもしれません。

NPO法人 樹木・環境ネットワーク協会
理事長 清水 善和

ミッション

人と自然が調和する 持続可能な社会をめざして

人の暮らしと自然の豊かさを保つことを両立し「持続可能な社会」を実現するためには、より多くの人々が自然とふれあい、自然について学び、自然の美しさや重要性を実感することが必要です。私たちはそんな思いを共有する人々に支えられて、活動を展開してきました。人々の思いを集め、森や里山、そして社会へ届けるために集う場所であり続けたい。樹木・環境ネットワーク協会の「聚（しゅう、『集』の旧字体）」という愛称には、そんな思いが込められています。



活動目的

森づくりや里山再生、人材育成、普及啓発活動などを実践しながら、「人と自然が調和する持続可能な社会」を目指す。



2019年度 トピックス

- TOPICS **1** 学校向け 自然体験プログラムのカタログ作成
- TOPICS **2** グリーンセイバーリードプログラムの実践
- TOPICS **3** フィールドの新しい展開 (TAMAZO)
- TOPICS **4** 新グリーンセイバーテキスト完成
- TOPICS **5** 南房総 台風処理支援

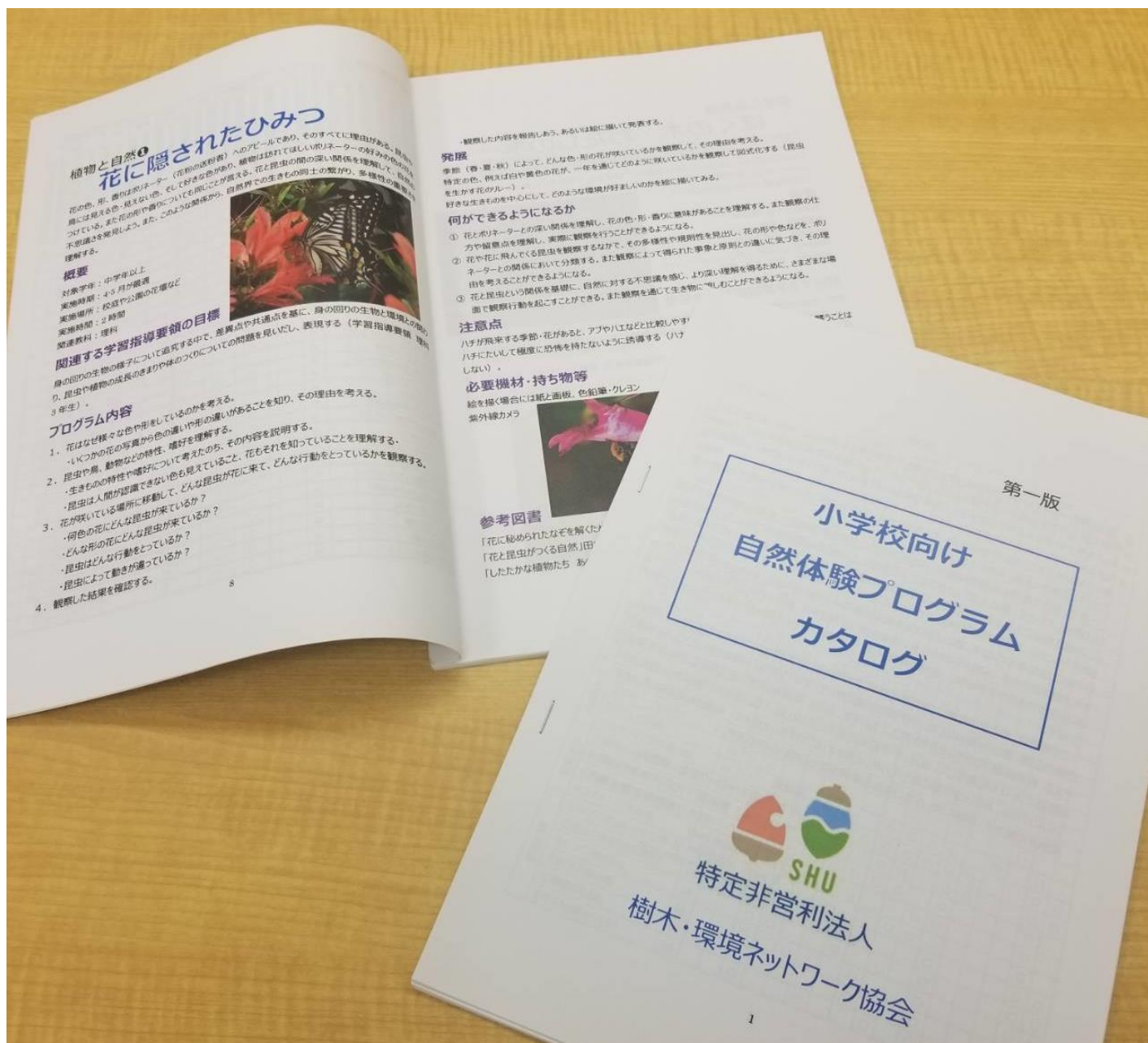
事業実績

(環境コミュニケーション事業&グリーンセイバー企画)

	2019年度	2018年度
事業数	事業 6 2回	事業 7 0回
活動回数	2 8 1 6名	2 8 0 6名
参加者数	2 4 3名	2 3 5名
指導者数		

※GS、会員、一般・外部講師含む





完成したカタログ

TOPICS 1 学校向け 自然体験プログラムのカタログ作成

環境課題に対して、私たちができることはなんだろう？

一つには、「自然に興味をもち、それについて考え、実行に移すということ」を、何代もの世代に引き継いでいくこと」があると思っています。なぜなら、何代もの世代が同じ思いを引き継がなければ、人間よりはるかに長い寿命を持つ生物を守り、繋がってゆくことはできないからです。

そこで、次世代を担う子ども達に「自然の素晴らしさ、不思議さ、豊かさを実体験で学んでもらいたい」と考え、私たちが実践してきた自然体験プログラムを、小学校向けにまとめてカタログを作成しました。

全28個のプログラムは全て、学校内や近隣の公園、里山や低山などで、グリーンセイバー資格を持ったメンバーが提供できるものです。「実施場所・対象学年・他教科との関連」などから、先生方に授業に適用できそうなプログラムを探して頂けるようになっています。



TOPICS 2 グリーンセイバーリードプログラムの実践

子ども対象の環境学習をグリーンセイバー（GS）リードプログラムで実施。

新宿未来創造財団（レガス）の委託を受けて、新宿区在住の小学生へ2回（合計85名）の環境学習プログラムを実施しました。子ども達にとってごく身近な戸山公園という環境で、たくさんの自然との触れ合いができることを知って、子ども達はとても楽しんでいました。

これらのプログラムについては、GSリードプログラムの一つとして、企画から先方との調整、実施を、聚の代表としてGSが行いました。たくさんの頼もしいGSメンバーの参加をいただき、不安なく実施でき、また先方からも子ども達からも高い評価をいただくことができました。私たちが長年実施してきている自然体験プログラムが持つ価値を改めて感じた機会でもありました。

2020年度もすでに夏休み短期集中講座（8月）、子どもクラブ（11月）の実施が決まっており、2019年度は中止になってしまったサイエンスフェスタにも参加の見込みです。GSの皆さんが自信をもってリードプロジェクトを推進できるよう、引き続き体制を整えてまいります。



「雑木林でいきもの探し！」

TOPICS 3 フィールドの新しい展開 (TAMAZO)

里山保全フィールドで、新しい展開が！

多摩動物公園雑木林 TAMAZO（たまぞう）は、当協会の里山フィールドの一つ、多摩動物公園を取り囲む雑木林の愛称です。

2019年度は通常の保全活動を拡充するとともに、来園者や地元住民の方々にも雑木林の魅力を体感してもらいたいと考え、「ライオンの森」で動物園と協働でイベント「雑木林でいきもの探し！」を行いました。

普段は立ち入ることができない「ライオンの森」を開放し、自由に植物や昆虫を探してもらうという、来園者向けイベントです。初回の5月の大成功を受けて、夏、秋と同様のイベントを実施。今後も季節ごとに雑木林を楽しんでもらえるようなイベントを企画していきます。

さらにTAMAZOでは、七生公園のビオトープ整備、昆虫の森の改造など、活動が次々に展開しています。

グリーンセイバー ネイチャー

GREENSAVER NATURE
植物の基礎と生態系を学ぶ

監修 岩槻邦男

編集 NPO法人 樹木・環境ネットワーク協会



グリーンセイバー カルチャー

GREENSAVER CULTURE
人と自然のかかわりを学ぶ

監修 岩槻邦男

編集 NPO法人 樹木・環境ネットワーク協会



SHU

完成したグリーンセイバーテキスト（ネイチャー、カルチャー）



TOPICS 4 新グリーンセイバーテキスト完成

2020年度からリニューアルするグリーンセイバー検定の公式テキスト「グリーンセイバー ネイチャー」「グリーンセイバー カルチャー」が2月に完成しました。

新制度では、ベーシック、アドバンスの内容を、ネイチャー（自然科学的分野）とカルチャー（人文科学的分野）の2科目に再構成し、古くなった情報の更新や、新しい環境関連のトピックスも追加しました。

新テキストは全ページカラーで、写真や図表を多用し、より読みやすく、理解しやすい内容、構成になっています。

グリーンセイバー検定の受験準備だけでなく、学校での環境教育、企業のCSR研修等の教材としても活用していただきたいと思います。



大房岬 千葉自然学校にて

TOPICS 5 南房総 台風処理支援

台風15号と19号は、千葉での大規模な倒木等の災害、広範囲での大きな水害をもたらしました。

特に被害が大きかった南房総市富浦町にある千葉自然学校の管理する自然の家では東京湾に突き出た地形から、強風の被害を受けた多くの木が倒れてしまいました。復興作業には多くの人手が必要であることがわかり、普段から里山で活動しているボランティアメンバーが集結し、2回に渡り倒木処理の支援を行いました。支援は今後も継続していく予定です。

【実施日】 第一回 9月18日（9名）、第二回 11月20日（7名）



フィールド事業



森を守る

13箇所のフィールドにおいて、保全活動を推進してまいりました。



- 里山の保全・再生・活用
- 都市の緑を守り育てる
- 宿泊型ワーキング

関東エリア

- 1.上野動物園 緑化ボランティア
- 2.町田 三輪里山
- 3.多摩動物公園雑木林 TAMAZO
- 4.武蔵野の森から学ぼう
- 5.千葉おぐらの森
- 6.嵐山ふれあいの森
- 7.二宮蜜柑倶楽部
- 8.八ヶ岳ワーキング

関西エリア

- 9.交野森フィールド
- 10.南星台フィールド
- 11.レッツ久宝探検隊・自然学習ゾーン
- 12.御杖村フィールド
- 13.和歌山ワーキング





19年に襲った2つの大きな台風（15号、19号）は、当会のフィールドにおいても大きな被害・影響を与えました。活動中止も相次ぎ、千葉では甚大な被害が発生したことも記憶に残り、いまでも倒木・かかり木の処理が追いついていません。

また、新しい取り組みもありました。

- 多摩動物公園との協働企画
「雑木林で生きもののさがし！」の実施
- 三輪小学校里山学習
グリーンセイバーの参画
- 二宮蜜柑倶楽部
近隣のエリア・梅畑の手入れの開始

グリーンセイバー事業

GS
グリーンセイバー
人を育てる

グリーンセイバー資格検定

GS見直しWGを月1回実施し、ベシック・アドバンスの改訂版に相当する新科目ネイチャー・カルチャーへの移行についてアナウンスを開始しました。2月には新しいテキストを発行し、8月の実施に向けて準備中です。

新型コロナウイルスの影響を受けて、3月のガイダンス（東京）はYoutubeを用いたライブ中継で実施。会場に来れない方も、Youtubeで視聴することができました。

グリーンセイバー企画

グリーンセイバーが企画するイベントです。

●これからはじめる自然観察

自然に興味はあって、もっと知るために一步踏み出したいという方向けの気楽に参加できる観察会。

8回実施 参加者94名 GS34名

●自然と親しむ講座

自然に関する知識やノウハウをもう少し深く学びたい、ステップアップしたい方向けの講座的プログラム。

8回実施 参加者121名 GS15名

●子どもわくわくプロジェクト

青少年を対象とした自然の不思議や魅力を五感で楽しむ自然体験プログラム。

5回実施 参加者175名 GS35名

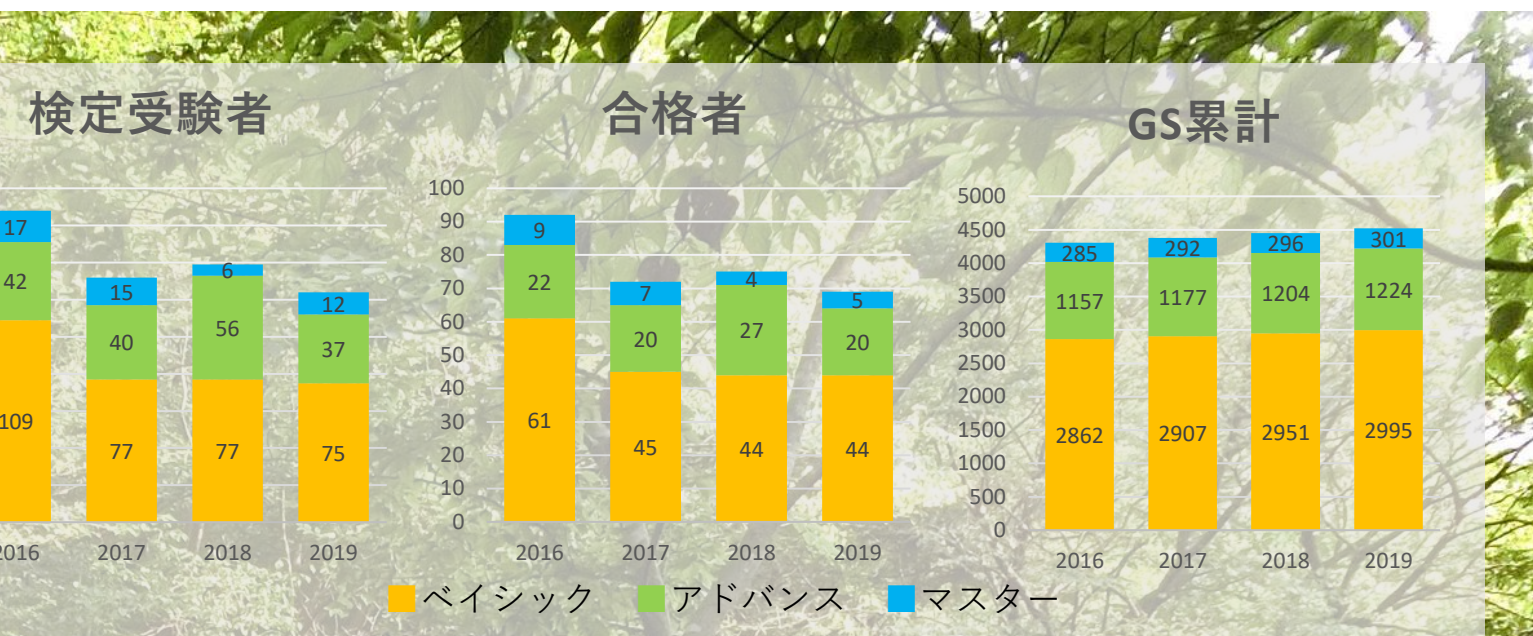
GS研修・勉強会

グリーンセイバーによる自主的な学習の企画

- ひとり一木
- フェノロジー研究会
- 植物育苗勉強会
- 昆虫散策会

- 第2回 清水先生と行く東洋のガラパゴス
～小笠原・父島、母島自然観察合宿～





環境 コミュニケーション事業

取
組
み
森と人を繋ぐ

次のような多くの法人・団体に協力をいただき、各種活動を進めてきました。

- 【フィールドでの受入れ】 11件（16回）
- 【環境イベントの協働実施等】 13件（18回）
- 【森づくり関連】 4件（4回、および通年）
- 【研修や授業の実施】 2件（8回、および2名）
- 【所有緑地の管理・活用】 2件（7回）
- 【環境ツールの制作、企画展示】 1件

参加者：約2521名（累計・不特定多数を含む）
実施にあたり関わった指導者（累計）：
GS98名 / 会員7名 / 一般・外部講師60名

石垣島里山プロジェクト

活樹祭からはじまった石垣島での森づくりプロジェクトを、活樹祭から独立して継続。今年は、未植樹エリアでの植樹に加え、島内の親子を対象にビーチコーミングによる海と森とのつながりを学ぶプログラムを行いました。このプロジェクトは「エコツアーりんぱな」と共催し、国土緑化推進機構、株式会社ローソンの支援を受けて実施しています。



わたしの森プロジェクト

横浜市のマンションで住民向けの菜園プログラムを開始しました。初年度はジャガイモをテーマにし、土づくり、種芋の植え付け、収穫まで行いました。普段食べているジャガイモの成長過程を身近な場所で観察できたこと、自分で収穫したものを持ち帰ることができたことが好評だったようです。各回80～100人集まる大人気イベントとなりました。

- ICTを活用した環境教育
- 総合学習の支援
- 他団体との共催イベントの実施
- 法人研究会



広報・運営

広報ツールの拡充

ホームページ、聚レター、メルマガ、各種SNS等を駆使して、最新の活動情報、イベント告知、活動報告などを発信。聚レターについては、グリーンセイバーの活躍に焦点をあてた新企画をスタートした他、過去の特集記事を電子書籍スタイルで読める「issuu」というサービスの利用も始めました。また、グリーンセイバー検定のリニューアルに伴うパンフレット等の広報ツールを作成。新ロゴからスタートした制作物のイメージ統一が、ほぼ完了しました。

オリジナルグッズの販売

オリジナルグッズをオンデマンドで作成できる「SUZURI」というサービスを利用し、協会ロゴ等をデザインしたグッズの制作、販売をスタート。ロゴ入りグッズを使用することで、メンバーシップを醸成、共有することがねらいで、収益は保全活動等の活動・運営に充当させていただきます。

Pay Pay の導入

年会費、テキストの購入など、当協会への送金方法として、スマホ決済サービスのPayPayを導入。PayPayアプリで当協会専用のQRコードを読み取り、任意の金額を入力して「支払う」をタップするだけで、振込手数料もかからず、事務作業の効率化にもつながります。

テレワーク体制の整備

テレワークやテレビ会議システムなどを整備しました。さまざまな働き方を選択できるNPOにしていくことで、継続的な運営を目指します。オリンピック期間中の混雑緩和や労働環境改善なども可能になりました。

広報 運営

企画実施報告

年10月6日(日) 9:30-12:30

場所 町田・三輪里山フィールド

参加者 7名(大人5名、子ども2名) リーダー 林 颯太

里山生態系のシンボル「フクロウ」を通して、自然と向き合う機会に

昨年からGS企画にリーダーとして参加している林です。今年の10月に親子対象のイベント「里山でマイお守りづくり」を開催しました。これは、里山で木の実や草花の種子を収穫し、収穫した実や種子を使って、自分だけのお守りをつくるという、自然観察とクラフト体験をあわせたイベントです。

このイベントを行うにあたり、念頭にあったのは、昨年の秋、自分で企画し、リーダーを務めた「スケッチで自然観察」というイベントです。秋の里山を散策しながら、木の実などを思い思いに収穫する体験が楽しかったという感想をいただいていたので、今回の企画でも取り入れたいと考えていました。また、自然は文化とつながりが深いと感じていたため、その要素も今回自然を

めています。なぜに置いてもらえ題材にしたのはブ可愛さに加えて、トが知られていて微といえる生物種考えました。

イベントの本番めていきながら、使用するススキのなどを実施。協力に、準備をすずめ学校行事と日程キャンセルが多かは、参加者それぞれ楽しんでいただプロジェクト」が、大人も楽しめ

QRコード: 聚電子版

聚レター電子版





SHU Letter

- No.151 -
2019.12.20



樹木・環境ネットワーク協会(聚)



SHUロゴ・シンプルピクチャー
ジップパーカー
¥4,700



SHUロゴ・シンプルピクチャー
Tシャツ
¥2,580



グリーンセイバーロゴ
手帳型スマホケース
¥3,100



Satoyamaイメージ
ジェットキャップ
¥3,480



グリーンセイバーロゴのクールな...
ジェットキャップ
¥3,480



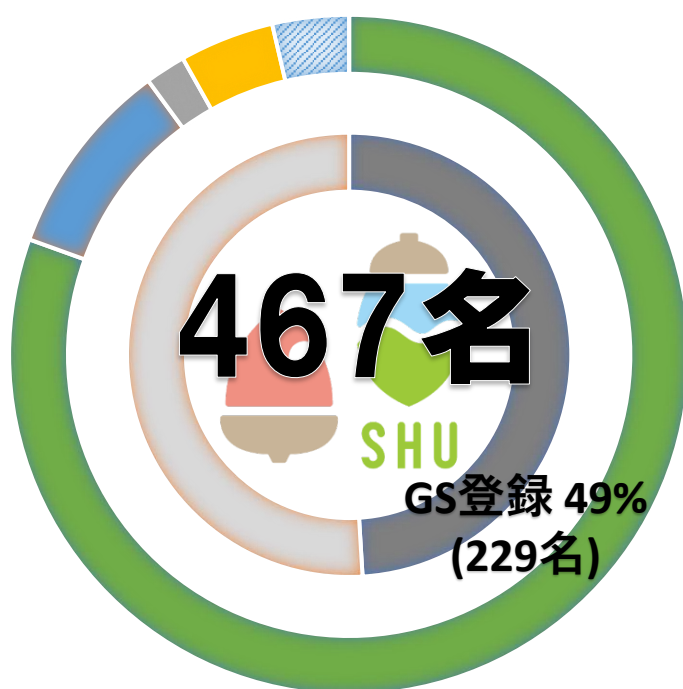
SHUロゴ反転
ジェットキャップ
¥3,480



▼オリジナルグッズ



2019年度 会員



正会員 (計450名)

	個人会員	376名
	家族会員	44名
	団体会員	9団体
	法人会員	21社

準会員 (計17名)

	賛助会員	17名
	ユース会員	0名

法人会員

株式会社アテナ

株式会社エスパシオ

NECネットエスアイ株式会社

株式会社新生銀行

株式会社昭栄

損害保険ジャパン日本興亜株式会社

株式会社高橋総本店

東京ガス株式会社

東京ガス不動産株式会社

株式会社東京吉兆

東京シティライオンズクラブ

凸版印刷株式会社

トヨタ自動車株式会社

株式会社ナカムラ・コーポレーション

株式会社日本設計

株式会社パラッツオ東京プラザ

株式会社美交工業

株式会社ひむか造園土木

三井住友海上火災保険株式会社

株式会社ユーエム工業

株式会社ローソン

【最高顧問】 池田 武邦	
【顧問】 山本 光二	樹医
【顧問】 澁澤 寿一	前理事長
【理事長】 清水 善和	駒澤大学総合教育研究部教授
【副理事長】 川端 自人	グリーンセイバー・マスター
【専務理事】 佐藤（中西） 由美子	グリーンセイバー・マスター
【理事】 飯塚 勇	株式会社丸原ホールディングス代表取締役
【理事】 伊藤 晴康	有限会社ゼフィルス 代表取締役
【理事】 大川 英登	御杖村フィールドリーダー
【理事】 岡本 俊彦	グリーンセイバー・マスター
【理事】 片山 雅男	夙川学院短期大学児童教育学科教授
【理事】 小林 勝彦	東京ガス株式会社 環境部長
【理事】 後藤 洋一	事務局長
【理事】 C.W. ニコル(20年度4月退任)	初代会長、アフアンの森財団
【理事】 塚本 秀貴	グリーンセイバー・マスター
【理事】 広瀬 攻	三輪里山フィールドリーダー
【理事】 藤井 英夫	トヨタ自動車株式会社 先進技術開発カンパニー 環境部
【理事】 渡辺 順彦	株式会社アテナ 取締役会長
【監事】 三尾 隆志	公認会計士
【監事】 吉田 寛	公認会計士 公会計研究所 代表

【事務局スタッフ】

専務理事	中西 由美子
理事・事務局長	後藤 洋一
スタッフ（東京）	種池 真依子
スタッフ（東京）	石崎 庸子
スタッフ（東京）	加藤 武
スタッフ（東京）	陣野 益実
スタッフ（大阪）	山本 睦子



当協会理事のC.W.ニコルが令和2年4月3日に死去いたしました。これに伴い、同日をもって理事を退任いたしましたことを報告いたします。

ここに生前のご厚誼に深く感謝すると共に、謹んでご通知申し上げます。

C.W.ニコル氏は、当協会発足当時は会長を務め、活動の発展に尽くされました。

ニコル氏の期待に応えられるよう、今後も活動を推進してまいります。

2019年度 財務報告

収支・成果報告

※この成果報告書は吉田寛氏の「公会計における財務諸表利用者としての納税者」
『(国府台経済研究第13巻第1号)』に掲載された表示形式を利用しています。

発生費用の部: 活動のためにかかった費用		非営利活動		2019年度合計
		2018年度	2019年度	
事業費	総務・管理	¥3,183,469	¥3,464,338	
	広報	¥3,255,515	¥3,770,946	
	グリーンセイバー事業	¥3,637,238	¥4,230,181	
	フィールド活動事業	¥6,761,893	¥6,160,918	
	環境コミュニケーション事業	¥12,861,872	¥13,578,240	
税金	法人税・住民税・事業税	¥150,000	¥150,000	
棚卸高	期首商品棚卸高			
	期末商品棚卸高			
発生費用合計		¥29,849,987	¥31,354,623	¥31,354,623

費用負担の部: その費用は以下のように負担しました。		非営利活動		2019年度合計
		2018年度	2019年度	
受取会費	会費負担分	¥4,167,000	¥3,890,000	
受取寄付金		¥1,350,827	¥1,115,341	
事業費収入	グリーンセイバー事業	¥1,893,826	¥2,691,781	
	フィールド活動事業	¥7,731,051	¥4,549,192	
	環境コミュニケーション事業	¥14,973,426	¥15,043,838	
事業外収入	受取利息・雑収入・助成金	¥36	¥239,330	
費用負担額合計		¥30,116,166	¥27,529,482	¥27,529,482
当期正味財産増減額		¥266,179	△¥3,825,141	△¥3,825,141

1) 助成金取得実績: 国土緑化推進機構(2,387,758)、厚生労働省(219,000)

2) 寄付金内訳: 朝日ライフアセットマネジメント(530,000)、KDDIキボウノカケハシ(294,690) 他

貸借対照表

(単位 : 円)

科 目	金 額	科 目	金 額
I 資産の部		II 負債の部	
1 流動資産		1 流動負債	
現金	127,242	未払金	2,278,333
普通預金	849,678	前受金	2,464,000
郵便振替口座	784,678	預り金	68,934
未収金	5,835,896	流動負債合計	4,811,267
前払金	0		
前払費用	162,800	2 固定負債	0
流動資産合計	7,760,500		
2 固定資産		負債合計	4,811,267
有形固定資産			
車両・運搬具	453,600	III 正味財産の部	
減価償却累計額	△453,599	前期繰越正味財産	7,203,575
有形固定資産合計	1	当期正味財産増減額	△3,825,141
無形固定資産		正味財産合計	3,378,434
商標権	74,000		
敷金	355,200		
無形固定資産合計	429,201		
固定資産計	429,201		
資産の部合計	8,189,701	負債・正味財産の部合計	8,189,701

監 査 報 告 書

特定非営利活動法人 樹木・環境ネットワーク協会の
2019年度決算について監査の結果、事業報告は事業の内容
を適切に反映していると認めます。

2020年5月15日

特定非営利活動法人

樹木・環境ネットワーク協会

監事 三尾隆志 

三 尾 隆 志

監事 吉田寛 

吉 田 寛



団体概要

【組織】

団体正式名称 特定非営利活動法人樹木・環境ネットワーク協会
設立 1995年9月19日
ホームページ <https://www.shu.or.jp/>

○東京事務局

[住所] 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-6
日本分譲住宅会館ビル8階南
[Tel] 03-5244-5447 [Fax] 03-5244-5448
[Mail] info@shu.or.jp

○大阪事務局

[住所] 〒576-0033 大阪府交野市私市5丁目17番11号
[Tel] 072-893-1716 [Fax] 072-892-3247
[Mail] kansai.syu1@nifty.com
[HP] <http://kansaisyu.o.oo7.jp/index.html>